

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	ポストコロナに向けた地方のソフトパワーと国家ブランディングの研究				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	小針 進
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	渡邊 聡
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	小針 進

講演題目	ポストコロナ下では日韓間の人的交流は回復するか
------	-------------------------

研究の目的、成果及び今後の展望

【研究の方法】

静岡県内と神奈川県内の高校または大学に通う学生を対象にして、海外旅行や韓国を含めた外国のポピュラー文化への接触に関する対面調査を実施しようと考えていた。ところが、今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大のため、これは取りやめた。代わりに韓国事情に関心を持つ学生（本学と首都圏の大学1校）に対するオンライン上のインタビューで、韓国カルチャーや韓国旅行への関心に関する聞き取りを実施した。韓国での事情に関しては、日本入国を韓国で待機する留学生（首都圏の大学）に対する聞き取りを行った。同時に、日韓両国のメディア報道や文献も分析対象とした。

【研究の目的】

コロナ禍は、国際間の人的移動を制限した。日韓間の場合、2019年度は900万人規模（日本人の訪韓330万人＋韓国人の訪日560万人）での両国国民の往来があった。この規模が、ポストコロナの両国間で回復するかどうかを探ることが、本研究の関心事のひとつである。旅行に行きたくても行けないことで起こる禁断症状を「ワンダーロスト症候群」という。旅先体験予約サイトKL00Kが2020年11～12月、アジア太平洋地域の13市場で15,323人を対象とした調査では、海外旅行に行けない現状を「不満」と回答した人の割合は、香港77、韓国72、シンガポール71、フィリピン69、台湾65、ニュージーランド61、マレーシア59、豪州58、ベトナム51、タイ38、中国37、日本36、インドネシア26の順で多かった（単位：%）。この数字だけを見ると、ポストコロナ下での海外出国においては、韓国人が有望で、日本人はそれに及ばないということになるが、日韓間ではどうであろうか。

【暫定的な結論】

韓国に関心を持つ日本の若者の場合、BTSなどのK-POP、「愛の不時着」などの韓国ドラマが関心を寄せる契機であり、コロナ禍のステイホームで韓国カルチャーへの接触が増し、女性の場合、韓国コスメの購買熱も高い。その一方で、日韓の外交関係が悪く、韓国の政界やメディアからの「言いがかり」のような対日姿勢に戸惑っていることが伺われる。彼ら／彼女らは、自らの感情を「モヤモヤ」と呼んでいる。それでも、韓国旅行に憧れる者が多く、「渡韓ごっこ」という遊びも行っているほどで、潜在的な韓国旅行熱はありそうだ。一方、韓国ではコロナ禍で日本カルチャーがブームになっているわけではない。それどころか、社会の「分断」が進むなか、政敵に「親日派」の烙印を押す政界の空気など、時代に逆行するような動きがある。日本政府の入国制限で留学先の大学から遠隔授業を受けざるを得ない留学生の不満も強い。韓国人の日本渡航がコロナ以前まで回復するかは未知数だ。